

COLLAGE DE CINÉMA

シネマコラージュ 映画から広がるファッション、こんなこと、あんなこと



点子ちゃんとアントンを見ながら、ずいぶん大人なんだな、と考えていた。いや大人と子供の境目が見つからなくなる。というのも、点子ちゃんやアントンのほうが、大人よりも生きるといふことに前向きで真剣で、なんだか大人より力強い。うんとパーソナル豊かで、個性が輝いている。それに比べると、大人のほうが、打算や計算ばかりが働いて、意外や精彩がない。純粋に生きるということを考えてみると、子供たちのほうが、なんだか大人より、真摯で大きく見えてくるのだ。

アントンは、ママの調子が悪くて、ママが働いていたアイスクリーム屋をクビになるといけないとけなげに同じ店でアルバイトをしている。アントンはママと一緒に海に行きたい。そのためにもお金が欲しい。彼の行動は、ママへの愛情とママと旅することに純粋に捧げられている。

アントンの友人点子は、アントンがママといつも一緒にいることを羨望らしくと感じている。そしてアントンとママとの旅行を実現させてあげたいと、純粋に思っている。一方、点子のママはというと世界の子供を救うというボランティアで世間やマスコミに受けて、社会的認知をもらうことに一生懸命。肝心の点子の気持ちを中心に正面から受けとめてくれようとはしない。パパは医者だが、こちらは仕事に追われている。

点子もアントンも目の前の自分に大切なものに純真で、力いっぱい抱きしめようという思いがあふれている。そしてなものにも左右されない力強さを備えている。こんな素直な気持ちは、誰しもが持っているものだ。でも大人になるとどこかに置き忘れてしまふ。

点子とアントンは、愛することは素晴らしいということすら優しく語ってくれて、それは温かさに変わり、そっと心を包んでくれる快さに満ちている。

Tenko chan Fashion



「点子ちゃんとアントン」

text: Hiromi Kanamaru
illustration & caption: Kiyomi Nakagawa



「点子ちゃんとアントン」

監督は、聖母者の両親を持つ少女の成長を描いた第一作「ビヨンド・サイレンス」でアカデミー外国語映画賞にノミネートされたカロリーヌ・リンク。彼女が選んだ二作目のテーマはケストナーの名作の映画化だった。「スピード」や「タイタニック」を見たがる子供たちにも、さまざまな問題を抱えてなお一生懸命生きるということに共感し興味を持てるような映画を作りたいという思いからはじまった。元気印の点子ちゃんには10歳のエリア・ガイスラー、けなげでひたむきなアントンには魅力ある男の子マックス・フェルダグが抜擢され好演している。98年ハリウッド映画賞に選出されるなど多くの映画賞に輝いた児童映画の傑作。メディア・スーツ配給、恵比寿「ガーデン・シネマ」にて6月公開予定。

●PÜNKTCHEN FASHION

点子ちゃんの本当の名はルイーゼ。2、3歳の頃とても小さかったのでピュンクトヘン(ドイツ語の点の意)、点子というニックネームで呼ばれるようになった。点子ちゃんはくるくるヘアで元気いっぱい明るい学生。外で遊ぶときは、Tシャツにオーバーオール、学校ではブルーのワンピース、パーティでは花柄のかわいいドレス、そして友達のアントンを助けるため地下鉄でストリートパフォーマンスをするときは、ちょっとジブシー気取りでドイツにハサミを入れてアバンギャルドに。点子ちゃんのファッションは、キュートでチャーミング。

Anton Fashion



●ANTON FASHION

点子ちゃんの親友、アントン。裕福ではないけれど、ママと二人暮らしでとっても幸せ。ママが病気になる、そのかわりにアイスクリーム屋さんでアルバイト。そんなアントンはチェックのシャツに短パンと少年らしいカジュアルスタイル。点子ちゃんの家でのパーティに誘われた時はちょっと小さくなった白いシャツと黒いパンツで決めて出かける。点子ちゃんのママへのプレゼントに小さなブーケを持ってくるけれど、社交に夢中なママにはあまり相手にされなかった。



●VOLKSWAGEN

アントンがアルバイトするアイスクリーム屋さんのバンはフォルクス・ワーゲン。ワーゲン社のバンは約50年前に誕生したが当時はデリバリーバンしかなかった。その特徴はワーゲンの精神ともなったフロントウィンドーでデザインはシンプル。その後、数々のマイナーチェンジを経て、1967年に一枚タイプのフロントウィンドーが発表され、それはバスという名で親しまれている。



Volkswagen VW Transporter typ-2

Barbie



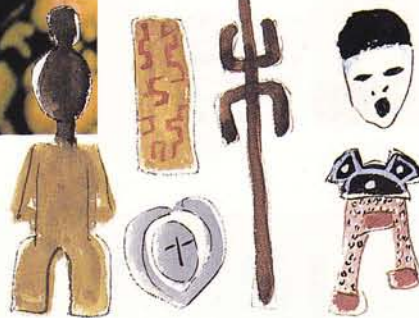
●BARBIE

お金持ちで何不自由ない点子ちゃんのはずだが、ただひとつ両親と一緒に時間が少ないのがとってもさびしい。話相手にきれいなバービー人形をたくさん持っていても一人ぼっちにはかわりはない。思わずバービー人形に向かって「あなたたちは退屈だわ。美人だけれど話ができない」とちょっとせつないひとり言をいう。



●AFRICA ART

点子ちゃんの家は広くてとてもモダン。その部屋を飾るインテリアや置物はアフリカのアートのものが多い。きっとボランティア活動で世界中を飛びまわっているママのコレクション。



Africa Art

Ice Cream Spoon



●ICE CREAM SPOON

アントンのママが働くアイスクリームバーラー。これは原作にはない。オーナーの陽気なイタリア人たちは、店と住まいを仕切るのにカラフルな長いテーブルで作られた目隠しを使用。この色はとってもポップ。この間アイスクリーム屋さんでもらったカラフルなスプーンのカラーみたい。



『点子ちゃんとアントン』

エーリヒ・ケストナー作

高橋健二訳 ワルター・トリヤー挿絵

『エミールと探偵たち』(29年)『飛ぶ教室』(33年)『ふたりのロッテ』(49年)など子供のための小説で有名なドイツの作家であり詩人のエーリヒ・ケストナーの代表作のひとつ『点子ちゃんとアントン』(31年)。貧しい中から一人息子の学費を捻出したケストナーの母を彷彿させるアントンの母。ケストナー自身が撮影された少年アントンなど、いつもながら愛情あふれる筆致で描かれている。ケストナーは戦時中、ナチスに抗したため焚書、執筆禁止などの迫害を受ける。1960年に子供の本に対して与えられる「国際アンデルセン大賞」を受賞している。岩波書店刊『ケストナー少年文学全集3』本体価格1,500円



DRESDEN

●DRESDEN

原作者エーリヒ・ケストナーは芸術と歴史の街ドレスデン生まれ。ドレスデンはかつてザクセン王国の首都であり、ドイツバロックを代表する最も美しい古都だった。その街の姿は一部を除き戦後再建されたものである。戦災から奇蹟的に逃れ残ったもののひとつにアラグス通りに面した王宮の壁、マイセン磁器のタイル2万5000枚を仕掛けて描かれた大壁画「君主の行列」がある。